

《地域社会》

(1)校区の教育的環境

- 波多津町は、伊万里市の北辺、市中心部より16kmの距離に位置する。古くは、縄文時代前期の曾畑式土器が出土したことから、少なくとも今から五千年前から先人の営みがあったことが明らかにされている。また、畑津には県内最古の社殿建造物である田嶋神社本殿があるなど、古い歴史と豊かな自然をもつ町である。

江戸時代は、唐津藩に属し、静かで安穏な生活に支えられてきたためか、言語・人情・風俗・生活習慣等一種の穏やかさを有している。

昭和42年（1967年）に福島橋の架橋、県道の国道204号線への編入により、道路事情が大きく改善されたため、辺地感は大きく薄らいだ。

- 産業の主体の一つである農業では、米・麦等の穀物の他、蜜柑、椎茸、煙草、い草等の栽培及び養蚕等が盛んに行われてきた。今日では、蜜柑、煙草、い草、養蚕等は漸次減少し、ハウスイチゴや玉葱等の生産が増えている。

しかし、食糧事情の変化、輸入農作物の自由化などにより、専業農家の数は大きく減少し、兼業農家または会社勤めへと移行している。

古くからの主産業である漁業は、農業と同じく、近代化や大型化に押され、漸次零細化している。現在は、フグ、鯛等の延縄漁や車エビの養殖などが行われている。

- 地域社会の学校教育に対する期待は大きく、町民をあげて、学校をもり立てていこうとする意識が高い。保護者のみならず、地域全体で学校行事等に積極的に協力するなど、頼もしい限りである。また、教職員に対する期待と信頼は大きく、学習指導・生活指導にも協力的である。

児童は、素直で純朴である。また、与えられた課題は真面目にやりとげるなど、行動面に表裏がない。運動を好み、元気で活発である。今後の指導の課題としては、基本的生活習慣の更なる定着と学習意欲の向上等、家庭や地域と連携を強化し、指導の充実を図ることである。

体育面では、伝統的に定着した「一輪車」、社会体育としての「少年野球クラブ」「ジュニアバレーボールクラブ」が盛んである。スポーツを通して、子どもたちの健全な育成と体力の保持増進を今後も図っていききたいものである。